



①熊本県熊本市内の被害の様子 ②収集が進まず、道にあふれるごみ ③全国から集まった応援職員 ④「応急危険度判定」が行われた建物

人ごとではない、大地震

最大震度7の強い揺れが2度襲った『熊本地震』。大規模地震は、私たちの身の回りでも発生する可能性は十分あります。今回の地震を機に、改めて地震に対する備えを考えましょう。

4月14日夜、突如熊本県を襲った大地震

4月14日午後9時26分、最大震度7の地震が熊本県で発生しました。また16日深夜には、『本震』が発生し、再び大きな揺れに襲われました。熊本県では建物の倒壊などで、49人が亡くなり、けが人は1500人を超えています。

そして震災から1カ月以上経過した5月22日現在も、熊本県内で9000人以上のかたが避難生活を続けています。

地震はいつどこで起きるかわからない

熊本地震は、これまで地震が少ないとされている地域で起きました。

私たちは事前に地震の事を『知り』『備え』なければなりません。そしていざという時には『支え合う』ことで、災害を乗り越えていかなければなりません。

今日は、『地震』について特集します。熊本地震への支援を続けながら、今、私たちが今後起きる可能性のある大地震に対して準備できることを考えてみませんか。



熊谷地方気象台 宮下真浩 地震津波防災官

専門家に伺う『地震』
〜地震への備え〜

地震は避けられない
地震調査研究推進本部の地震調査委員会によると、今回の熊本地震は2つの活断層の動きによるものという見解が出されています。4月16日に発生した『本震』では、埼玉県でも体に感じる揺れを観測し、今回の地震が非常に大きな地震であったことを物語っています。

り合わせです。
今だからできる、地震への備え
地震が起きる前に、まず、飲料水などの備蓄品や自宅の耐震性の確認、家具の固定などを行うことが重要です。また、地域の防災活動に参加することも大切です。

各自自治体で作成している『地震ハザードマップ』は、事前の備えに活用してほしい、重要なものです。ぜひハザードマップを手に取りながら、地震が起きた時にどのように行動したらいいのかをシミュレーションしてみてください。

また、気象庁では最大震度が5弱以上と予想された時、緊急地震速報を発表しています。しかし、震源が近いと地震波の到達のほうが早く、間に合わない場合もあるのです。決して万能ではありません。そうした特徴も知ったうえで、ぜひ活用してください。

特集 人ごとではない、大地震

『人ごとではない』 深谷市でも起こりうる地震

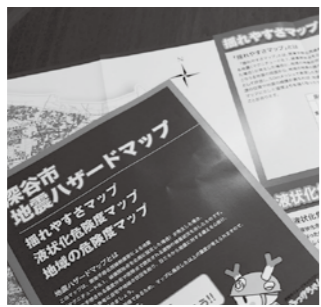
地震は、いつどこで起こるかわかりません。しかし、地震の被害想定や発生の可能性を知り、地震に備えることができます。

南関東では30年以内に70%の発生確率

県が平成24〜25年度に実施した『埼玉県地震被害想定調査』の想定では、『東京湾北部地震』および『茨城県南部地震』の発生確率が今後30年以内に70%とされています。

深谷市に被害が想定される地震として、最も可能性が高いのがこの2つです。

しかし、いずれの地震が起きた場合も、震源から距離があるため、市内の最大震度は5弱と想定されており、人的被害、建物被害ともに小



▲『地震ハザードマップ』には、市内の揺れやすさの情報などが記されているほか、非常時に必要な事項が書かれています

断層帯と深谷市

さいとされています。
深谷市周辺には、深谷断層帯と綾瀬川断層帯からなる全長約82kmにわたる『関東平野北西縁断層帯』があります。30年以内にこの断層帯が原因とした大規模地震が発生する確率は0・008%とわずかですが、それでも、私たちは常に『地震』と隣り合っていて生活しているということを忘れてはいけません。

地震を知る

備える

心構えと備えが命を救う 自宅・公共施設の耐震化

深谷市では、大地震に備え、幼稚園・小・中学校や保育園などの公共施設の耐震化を進めてきました。

公立幼稚園・小・中学校 校舎などの耐震化完了

大地震が起きた時に、子どもたちの身の安全を第一に守るのが、校舎や園舎です。また、災害が起こると体育館は、一時的な避難所として活用する重要施設です。市では平成27年度までに市内全幼稚園・小・中学校の耐震化を完了しています。

公立保育園・学童保育室 耐震化が進む

市内の保育園や学童保育室も耐震化を進めています。
また、市では『深谷市保育園緊急整備事業補助金』制度を用意し、私

立保育園の事業者が園舎の耐震化を行いやすい環境づくりに努めてきた結果、ほとんどの施設で耐震化を完了しています。

熊本地震で機能を失った 市役所庁舎

熊本地震では、自治体庁舎も数多く被害を受けました。その結果、防災拠点としての機能を果たせず、防災証明書の発行など、生活再建に不可欠な事務も滞りました。それらの庁舎の多くが、中規模の地震を想定した旧耐震基準に基づいて建設された庁舎で、現在の深谷市役所本庁舎も同じ



▲熊本市内では5自治体の庁舎が使用困難になりました

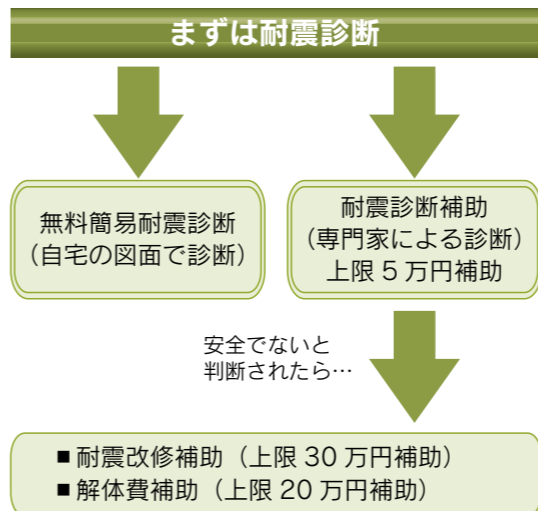
基準で建設されているため、万が一の大規模地震の際には使用できなくなる可能性が非常に高く、防災拠点としての役割が果たせない恐れがあります。
そこで市では、一刻も早い深谷市役所本庁舎の耐震対策を行うため、『安全・安心な防災拠点、シンプルで機能的な庁舎』を目指し、現在新庁舎建設を進めています。

新規事業 耐震シェルター等設置補助

市では、家庭で耐震シェルターや防災ベッドを設置した際に最大10万円の補助を行います。耐震シェルターは、寝室など部屋単位で耐震補強できる比較的安価な地震対策です。受け付けは7月から始まりますので、ぜひご利用ください。詳しくは広報ふかや7月号でお知らせします。

深谷市の耐震診断・補助制度

問い合わせ 建築住宅課 ☎574 - 6655
市には耐震診断補助制度や耐震改修補助制度など、万が一の地震に備えた制度があります。ぜひこの機会にご利用ください。なお、補助の詳しい内容、対象の建築物などについてはお問い合わせください。



※必ず工事着手前に申請してください。着手後の申請は受け付けできませんのでご注意ください。

特集 人ごとではない、大地震



▲4月20日に市役所本庁舎前で、『高菜めし』のおむすびを配布し、義援金を募りました

広がっていく支援 深谷から被災地へ

今回の熊本地震でも、さまざまな形で支援が行われました。

熊本と深谷を『むすぶ』 高菜おむすび

深谷市赤十字奉仕団と社会福祉協議会は、市役所本庁舎前で熊本郷土料理『高菜めし』のおむすびを配布し、義援金を募りました。集まった義援金は、全て被災地に送られました。

広がる支援の『心』

市内事業者、小・中学校や幼稚園、自治会連合会、市議会など支援の輪が広がっています。

5月20日現在、日本赤十字社埼玉支部深谷地区で預かった義援金は1千万円を超え、全額を被災地へ届けました。ご協力、ありがとうございました。

なお、引き続き6月30日(木)まで義援金を受け付けていますので、皆さまのご協力をお願いします。

熊本県へ派遣 『応急危険度判定士』

県を通じて、被災した建築物の危険性を応急的に判定し二次災害を防ぐ『応急危険度判定士』の派遣要請があり、市からも職員を派遣し、4月23日～25日の間、熊本市内で活動しました(下記に派遣職員の話掲載しています)。

市では、このような大地震に備え、『被災建築物応急危険度判定士ネットワーク』を構築しています。ネットワークでは、大規模地震が起きた際には被災した建物の応急危険度判定を、行政と民間の判定士が連携しながら実施していきます。



震災から二週間の熊本 支援活動を行って

私が『応急危険度判定』を行ったのは、熊本市内のうち、震度7を記録した益城町に隣接する地域でした。そこで3日間、計82件の建物を判定しました。

現地に入ると、家屋や壁が崩れ、危険な箇所が数多くありました。そのような被害の状況を目の当たりにして、住宅の耐震化の重要性を改めて痛感しました。

避難者の方々は、度重なる地震に疲労し、判定活動中に辛い胸の内を聞くこともありましたが、しかし、どのかたも活動を快く受け入れてくださりとてもありがたかったです。

※被災地派遣職員の話は市ホームページにも掲載しています。ぜひご覧ください。

支え合う